

## 先進校視察

2月14日（水）に文部科学省指定「リーディングDXスクール推進事業」の指定校である土佐山学舎に視察に行きました。土佐山学舎は、9年間の義務教育を系統的に1つの学校で進める義務教育学校です。土佐山学舎では日常的にICTを活用しているようで、どの学年の児童生徒も慣れた様子でタブレットを操作していました。

### 【リーディングDXスクール推進事業】

GIGA端末の標準仕様に含まれている汎用的なソフトウェアとクラウド環境を十全に活用し、児童生徒の情報活用能力の育成を図りつつ、個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実や校務DXを行い、全国に好事例を展開するための事業（文部科学省HPより引用）

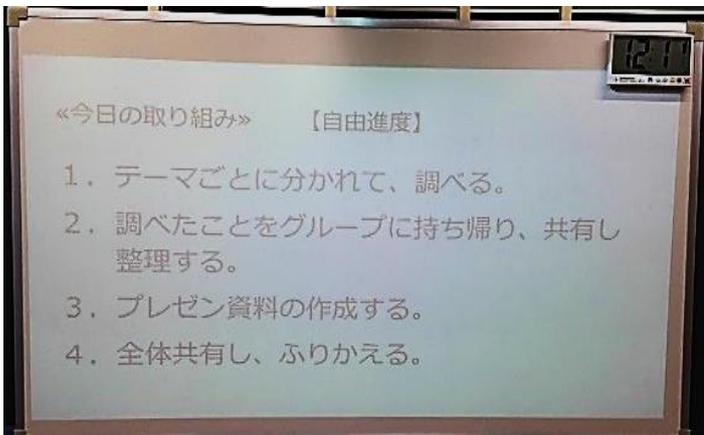
使用していたツールは1種類ではなく、Google ミートを使って鳴門教育大学の留学生と英語でリモート交流をする学年に、ロイノートで絶滅危惧種についてまとめ英語で発表し合う学年、Google スライドで方言についてまとめ、発表している学年など様々でした。

どの学年にも共通していたのは、教師が必要以上に指示をしすぎないようにしているという点でした。



このように、モニターや端末に流れを提示しておき、児童生徒の思考を分断するような指示を途中でする必要が無いようにしていました。

教師の話す時間が増えれば、当然学習者が思考したり活動したりする時間は減ってしまいます。このような方法で、教師が話す時間を減らすだけでも、授業を変えるきっかけになるのではないかと思います。



変えるのであれば一気に変えないといけないことありますが、授業については先生方もこれまでに積み重ねてきたものがあるでしょう。それらを一気に手放して学習者に預けるのは、非常に勇気があることだと思いますし、学校によっては子どもたちも戸惑うかもしれません。なので、少しずついいと思います。学びの主体を子どもたちに移そうと努力する先生方の取組を応援、今よりもっと主体的に学習に向かう子どもたちの姿が見られたら、それは素敵なことだなと思います。

今の時代、「指示通りに動く」ということにおいて、機械に勝つことはできません。その機械をいかに活用して、

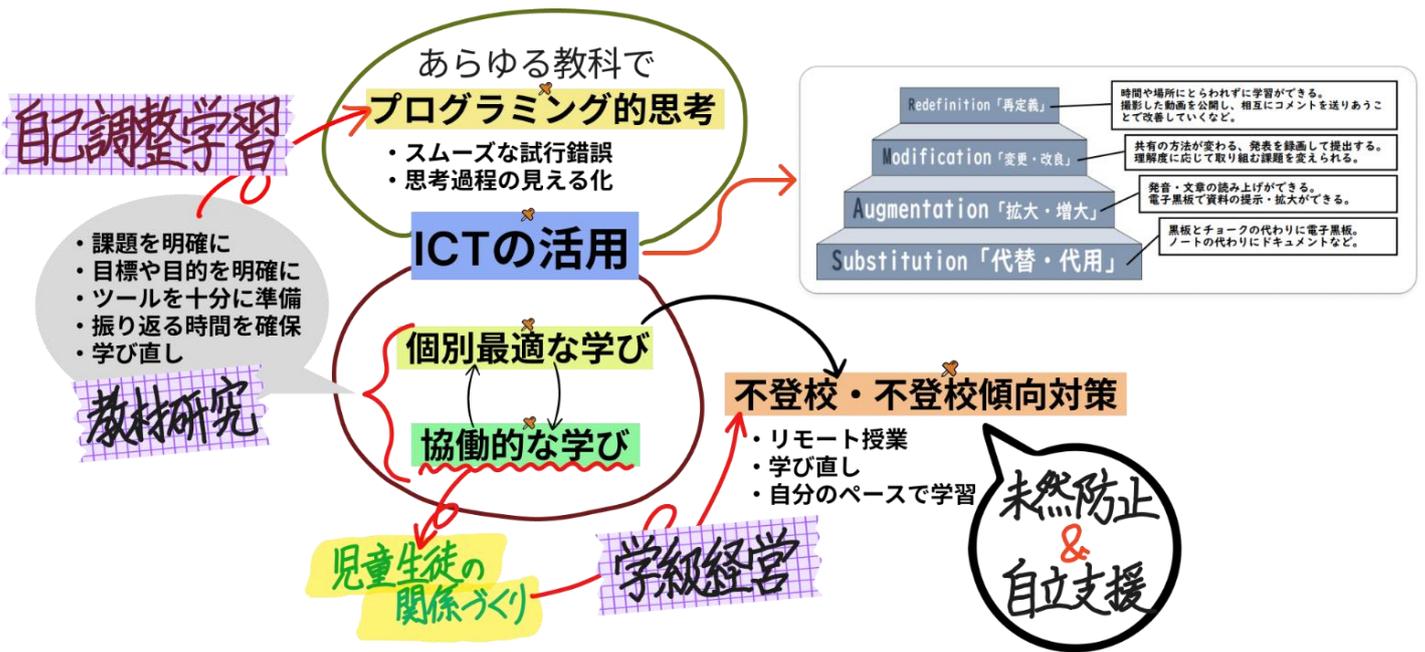


自分たちの学びや仕事の質を向上させるか。また、いかに主体性をもって社会と関わることができるかが大切だと思います。現在学校で学んでいる子どもたちが社会に出て活躍するのは何年後でしょう。5年後、10年後、あるいは15年後になるでしょうか。その数年で、社会の状況はまた大きく変わるかもしれません。今回の視察を通して、授業は、教育は、子どもたちの少し先の未来を見据えて行っていくという意識をもち続けることが大切だと、改めて考えさせられました。



## おわりに

1年間「ICTの効果的な活用」「プログラミング教育」「不登校・不登校傾向の対策」について考えてきました。不慣れなことも多く、ご迷惑をおかけすることもあったかと思いますが、授業をさせていただいたり、見せていただいたりする中で、私自身非常に多くのことを学ぶことができました。特に思ったのは、これら3つが別々のものではないのだ、ということです。



さざなみ②でもご紹介しましたが、ICT活用の程度を表す「SAMRモデル」というものがあります。改めて自身の授業を振り返ったとき、どの段階にいるでしょうか。学校全体としてはどの段階まで来ているでしょうか。主体性をもって学ぶ学習者の個別最適な学びと、協働的な学びを実現させるために、ICTは欠かせません。これまでにやってきたものをいきなり変えるのは簡単ではないと思いますが、これからの社会を生きていく子どもたちのために、少しずつでも変えていけたらと思っています。ちなみに、上の図は「FigJam」というツールを使ってイメージを書き起こしたものです。今後「ジャムボード」が使えなくなるということで、先行して使ってみるようになっています。Googleのアカウントで使用できますので、一度使ってみてはいかがでしょうか。

今年度は、様々な面で教育研究所の活動にご協力いただき、ありがとうございました。来年度もよろしく願います。